

みつけた!

福岡県保育協会通信



Discovery.

By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ -----	2
福岡県知事あいさつ -----	3
福岡県保育士会会長あいさつ -----	4
第 62 回筑豊地方保育事業研究大会報告 -----	5
認定こども園 -----	6
公立発信 -----	7
第 62 回全国私立保育園研究大会熊本市大会 -----	8
第 6 回九州保育三団体研究大会 鹿児島大会 -----	9
新園紹介 -----	10
新園紹介・編集後記 -----	11

公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康

会長あいさつ

幼児教育・保育の無償化について



新しい経済政策パッケージが昨年12月に閣議決定され、具体的な検討がなされていることにつきましては保育に長らく携わる者としては喜ばしく感謝申し上げる次第です。我が国の少子化対策は喫緊の課題であり、その一環として子育て世代の経済的負担の軽減となる幼児教育・保育の無償化については評価をしておりますが、保育ニーズの多様化、待機児童問題や人口減少地域における保育の確保、全国的な保育士不足、保育の質の向上等々、保育に関わる諸課題につきましては関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

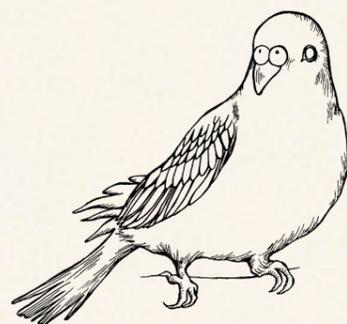
「幼児教育・保育の無償化」は10月の実施まで期日が迫っています。保護者に混乱を招かないように各施設が保護者へスムーズに説明、情報提供を行っていただきますようお願い申し上げます。

子ども・子育て支援事業計画については、今年度施行後5年の見直しを迎えるに当たり、公定価格の適正化に向けた、公定価格の算定における個々の見直しを検討することに加えて、各々対象となる費目を積み上げる「積み上げ方式」から、実態調査等に基づいた、人件費、事業費、管理費等を包括的に評価する「包括方式」への移行も検討すべきとされています。保育3団体組織としては「積み上げ方式の堅持」を要望しております。その上で公定価格の包括方式の課題については保育3団体協議会で共同して研究を進め、今後、作業部会を設置して協議を開始する予定となっています。

また、公定価格における土曜日開所の取り扱いについてですが、施設を利用する子どもがいるかいないかに関係なく実施しなければなりません。現行の公定価格には土曜日を閉所している施設に対しては減算規定があります。しかし、他の保育

所等と共同保育を実施することにより「保育を認定されている子ども」の土曜日における保育が確保されている場合には、土曜日は開所しているものとして取り扱うこととされています。職員の配置や勤務については各施設の経営方針に任せられるべきであり、土曜日の開所に利用する児童数に合わせた職員数を配置することは、経営上当然のことです。土曜日の利用者が少ないことのみをもって、共同保育の推進や輪番制の土曜日開所等を検討することは、子どもの最善の利益を考える観点からも議論が必要であります。土曜日の児童数、職員数の調査結果のみにより公定価格の議論に結び付けるべきではないと思います。

皆様方には今後ともご支援・ご協力のほど、宜しくお願いいたします。



福岡県知事 小川 洋

知事あいさつ



公益社団法人福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動を通じて、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大な貢献をいただき、深く感謝申し上げます。

本年5月の滋賀県大津市での事故をはじめ、園外活動の最中の事故が相次ぎ、尊い命が失われました。本県としましては、現在、散歩道などの緊急合同点検を実施しているところであり、今後、必要な安全対策を講じてまいります。皆さまにおかれましては、引き続き子どもの安全の確保に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

さて、ご承知のとおり、改正子ども・子育て支援法が公布され、10月から「幼児教育・保育の無償化」が始まります。県としましても、円滑な導入を図られるよう、制度の周知に力を尽くしているところです。皆さまにおかれましても、保護者の皆さまへの周知にご協力いただきますようお願いいたします。

また、県では、増大する保育需要への対応および保育環境の充実を図るため、引き続き市町村や貴協

会などの関係団体と連携しながら保育所の施設整備を促進するとともに、保育の質の向上に向けた階層別研修や専門性の高い各種研修の実施に加え、保育士の人材確保および処遇改善にも取り組んでいるところです。

喫緊の課題である保育士確保につきましては、本年1月に、保育士の就業を支援するマッチングサイト、「ほいく福岡」を開設しました。当サイトの活用により、登録者やマッチングの増加を図るとともに、希望する求職者には県や市町村が実施する施策情報を配信し、保育士の就職を強力に支援してまいります。

子どもは福岡県の宝、元気の源です。これからも、保育に携わる皆さま方のご意見を踏まえ、子どもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに貴協会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

福岡県保育士就業マッチングサイト

ほいく福岡

はじめました!



お問合せ先 福岡県保育士就職支援センター（福岡県保育協会内）
電話：092-582-7955 FAX：092(582)7956

私たちが
チカラに
なります!

コーディネーター



福岡県保育協会保育士会会長 上村 初美

ごあいさつ



令和の年を迎え、新しい年の幕開けとなりました。私こと、去る五月二十一日をもちまして 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育士会会長の職を退任し顧問に就任いたしました。

在任中は「子ども・子育て支援新制度」の施行や保育所保育指針の改定、保育士等キャリアアップ研修など保育制度改革への対応や東日本大震災をはじめとする各地で相次ぐ災害への対応など様々な課題に直面し、力が及ばないところもあったかと思いますが、皆様方のご指導とご厚情により無事職務を果たすことができましたことを心より感謝申し上げます。

会長在任中の4期8年間は、特に保育士会組織内部に向けて、会員の帰属意識を高めるとともに組織強化の充実に取り組みました。安定した財政基盤の確立と研修体系に基づいた研修の実施等は、保育の質を高める上での根幹となるものでした。地域社会に向けては、保育の言語化に取り組み自ら行っている保育の説明とともに、私たち専門職保育士の社会的評価を上げるべく発信をして参りました。この取り組みは、保育士会会員の皆さんの共通した思いで、力強い共感と支持をいただきました。

また、外部組織の全国保育士養成協議会の研究事業等にも保育士会組織より研究員の一人として参加させていただくなど、多くの学びの機会をいただきました。広く地域の皆様に保育の現場をより理解していただくとともに質の高い保育を目指すために、また何よりも、次の世代の保育士養成を共にするという共通した目的を共有できたことは、この上ない喜びでありました。

今、保育を取り巻く課題は、ますます深刻化しています。少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化に加えて、子育ての不安感や負担感、孤立感、そして虐待など、大きな社会問題となっています。

一方、待機児童解消問題もあり、各保育所等では、

保育士確保も難しいという現実があります。そして、本年10月からは「幼児教育・保育の無償化」が始まります。ますます待機児童解消問題に拍車をかけるとともに、保育の質の低下を招くのではないかと案ずるところです。この政策は、少子化対策に向けての取り組みの一つではありますが、多くの課題を残したままでのスタートとなっています。

私たちは、「保育の質の確保」を担保しながら、専門職として保育の関係者の皆様と強いネットワーク作りをし、保育所保育指針に基づく、子どもを主体とした保育の実践を深めていきたいと思っております。

「子どもの最善の利益とは何か」を常に問い返ししながら、子どもたちの良き代弁者となることを目指して、これからも保育の道に邁進して参ります。今後も更なる、皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



第62回 筑豊地方保育事業研究大会

大会実行委員長 田川地区保育協会 松岡 久代

「子どもたちの未来のために
どのような保育を目指すのか」

令和元年6月9日(日)、田川文化センター大ホール(田川市)に於いて、田川地区保育協会の主管により第62回筑豊地方保育事業研究大会を開催いたしました。

当日は初夏の汗ばむ天気の中、約1200名にも及ぶ沢山の保育関係者の方々にお越しいただき、会場は熱気に包まれ、盛会のうちに開催できましたことに対し、先ずは心より厚く御礼申し上げます。

今大会は、日本国の新しい『令和』の時代を迎えて開催する輝かしい大会となりました。

昭和生まれの私にとりましては、戦争と動乱の戦前、戦中。そして敗戦から輝かしい経済成長を遂げた『昭和』という激動の時代を経て、安定した平和と新しい文化、文明が沢山生まれた『平成』、そして『令和』と、三つの時代を沢山の子どもたちと共に過ごし、共に笑い、いつも子どもたちの大きな成長を願い保育に携ってきました。

大きな繁栄と経済の安定した現代と、昭和初期時代の子どもたちのおかれた環境を比べると、現代の子どもたちの方がはるかに活き活きと輝いていなければなりません。しかしながら大会趣旨にもありますように、生き方が多様化した現代では、児童虐待の増加により悲しい事件も珍しくはなく、スマートフォンなど電子媒体での子育てによる弊害など、複雑で多種多様な問題を抱えるようになりました。

そんな現代だからこそ、保育に携わる私たちは様々な保育ニーズに瞬時に対応し、保育全体の質と魅力の向上に努め、いつの時代も子どもたちの最善の利益の確保と、一番大切な『笑顔』であふれる子どもたちをもっともっと増やしていくことが、時代がいくら変わろうとも私たちの保育関係者の第一使命だと考えております。

さて、大会ではまず沢山の歴史と豊かな大自然に囲まれた福岡県田川郡添田町にあります、聖光保育園 主任保育士 前田美由紀先生による事例発表を行いました。仏教をもとに二十数年間続いているお茶の稽古を通じて、静寂・行儀・礼儀など心豊かに成長するために保育を行うなど、日本の心と伝統を大切にされた保育事例発表をしていただきました。

事例発表後の大会式典では、17名の来賓の方々にご出席いただき開催いたしました。白山勝也筑豊地方保育協会会長の式辞に続き、万田康福岡県保育協会会長よりご挨拶がありました。引き続き行われた表彰式では、保育士他27名の方々が一般表彰を受けられました。

続いて開催地を代表し、田川市長二場公人様、田川郡町村会会長永原讓様代理の福智町副町長黒土孝二様の2名



の方に歓迎のご挨拶をいただいた後、お忙しい中ご出席いただきました来賓の方々を代表し、福岡県知事小川洋様代理の福岡県福祉労働部部長神代暁宏様、自由民主党幹事長特別補佐衆議院議員武田良太様、自由民主党女性局局長代理の参議院議員自見はなこ様、福岡県議会議長栗原渉様代理の福岡県議会議員大島道人様の4名の方々より心温まる励ましのご祝辞を頂戴いたしました。ご祝辞の中では子どもたちと保育所・保育関係者の更なる環境改善や、今大会の趣旨にもある現代の子育て環境の複雑さと様々な角度からのアプローチの重要性を訴えていただき、私たちは更によりよい保育に励んでいく大きな勇気と希望をいただきました。

記念講演では、地域の歴史を学ぶことこそが大きな人間形成の礎になるとの考えのもと、「海の道むなかた館」館長西谷正先生よりご講演をいただきました。

アトラクションでは地元田川出身のバイオリニスト木村厚太郎様をはじめ、バリトン歌手加来徹様、川崎町出身のシンガーソングライターいとうえあい様、ファゴット奏者重松真央様、ピアニスト今泉響平様の全て福岡県出身という5名のアーティストの方々より公演を行っていただきました。

木村厚太郎様におかれましては、毎年年末に田川で開催している第九を歌うパイ in 田川で指揮指導を行っており、田川の保育所の子どもたちにも第九等の指導に当たっていただいています。また毎年3月には卒園を迎える年長児に対し、卒園を祝うコンサートを行なっていただく等、田川の子どもたちに変え親しまれています。

最後に、今大会の成功に向けて、昨年の9月より実行委員会を行い、毎月会議をしながら議論を重ね、意見を出しあいながら準備を進めてきました。振り返って思うことは一人一人の力を結集し、協力しあわなければ今大会の成功を収めることができなかつたということです。社会全体も保育会も同じことが言えると思えます。

今後とも筑豊地方保育協会並びに福岡県保育協会が一丸となり、子どもたちの未来の為によりよい保育環境を創造していくことをお誓いするとともに、今大会に携わっていただきました全ての皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、第62回筑豊地方保育事業研究大会の報告といたします。

認定こども園

こどもの園りとるばんぶきんず 園長 鈴木 正瑞
「新しい保育・教育の創造」を目指して
 ～幼保連携型認定こども園への移行にあたって～



【はじめに】

社会福祉法人清香会 こどもの園りとるばんぶきんずは、豊前市三毛門地区という海あり山ありのこの上ない自然環境に恵まれた地域にあり、当園の名称「りとるばんぶきんず」は特産品である「三毛門カボチャ」に由来しています。(※加えて、pumpkinは子どもへの愛情を込めた呼びかけとしても使われています。)

当園は、豊前市で大正13年に保育事業を開始した清高保育園を母体に、公立の三毛門保育所の民間移管をうけて2002年に開園しました。その後、当法人は福岡県に続き横浜市(横浜りとるばんぶきんず)、東京都中央区(中央区立十思保育園)・中野区(中野りとるばんぶきんず)・渋谷区(西原りとるばんぶきんず・西原りとるばんぶきんず ANNEX・千駄ヶ谷りとるばんぶきんず)・豊島区(大塚りとるばんぶきんず)・杉並区(荻窪りとるばんぶきんず・高円寺りとるばんぶきんず)と、「りとるばんぶきんずグループ」として都市部での子育て環境にも応じた保育・教育を実践しています。そして、これまでの実践を生かし、本年4月に当園は幼保連携型認定こども園としての歩みをスタートさせました。

【新しい保育・教育の創造】

私達は「保育・教育を科学する」視点を持ち、「現代社会で問題になっていること」「その問題から想像できる将来の若者像」を見据え、今の時代に必要な保育・教育を常に検証し実践していく、「新しい保育・教育の創造」を法人理念として掲げています。子ども達一人ひとりとはみんな違う個性を持っています。そして、時代は刻一刻と変化を遂げており、時代の流れの中で絶え間なく子ども達の成長はすすんでいます。我々は九十数年の実績に裏付けられた保育・教育を土台に、しかしそれに甘んじることなく、今の時代と一人ひとりの子どもと正面から向き合いながら、その時その瞬間の最善の保育・教育を創っていくことを目指しています。

【保育・教育活動について】

私たちは「今」、そして「未来」にふさわしい保育・教育を創造することが最も重要だと考えながら、非認知能力であるやる気・意欲・興味関心を育む様々

な保育・教育活動を行っています。一人ひとりを尊重するときと集団での活動を大切にするときのメリハリや年齢別活動と異年齢活動のバランスに配慮するとともに、モンテッソーリ教育等による子ども達の自発的な活動への援助、また、美術やダンス、英語や体操等といった専門性のある幼児教育にも取り組んでいます。紙幅の都合で一つだけ紹介させていただくと、マーチングバンド活動が当園の顔として地域の方々にも浸透してきました。

年長さんになると、専門講師の指導を受けながらマーチングに取り組みます。鼓隊とフラッグ隊に分かれて全員で息を合わせた演奏と隊形移動を心がけながら練習を重ねます。決して技術の向上を目的とするのではなく、一人ひとりの個性と役割が輝く調和(ハーモニー)を意識して、子ども達の達成感と未来への意欲を育む取り組みです。一生懸命な子ども達の姿は見る者に感動を与え、地域の様々な行事に引っ張りだこです。

【幼保連携型認定こども園への移行にあたって】

幼保連携型認定こども園の認可申請手続きにおいては、その提出書類の多さには苦労いたしました。大変勉強にもなりました。例えば、教育保育課程の作成・提出にあたっては、独自に構築してきた保育課程を幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて並べ替えたり見直し作業を行うことで、認定こども園への理解を深めることができました。

また、一度作り上げた申請書類について、「保育士」という記載を全て「保育教諭」と修正・差し替えを求められた時も、些細な作業をすすめながら認定こども園への移行を改めて自覚させられたりしたこともありました(笑)。

認定こども園になって、保育料の徴収や文部科学省への事務的対応等々の業務負担はありますが、保護者の就労状況に関わらず子どもを園に通わせることができるということで、それが保護者の安心感につながっていると感じます。

まずは新たな業務を堅実にこなしていきながら、幼保連携型認定こども園というシステムのもとしっかりと園運営を行っていきたいと思います。



【はじめに】

香春町立採銅所保育所は、香春町の北部にあります。緑豊かな田園地帯にあり、自然に恵まれているため、園庭で戸外あそびを楽しみ、散歩に出かけ四季折々の自然と触れ合うことを主な活動としています。また、現在44名と少人数ですが、家庭的なゆったりとした雰囲気の中で、子どもたちはのびのびと園生活を送っています。

【保育目標】

- ・心身ともに健康で豊かな子ども
- ・自分で考え、意欲的に行動できる子ども
- ・思いやりのある、命を大切にできる子ども

【戸外あそび・園外保育を通して】

自然豊かで、散歩コースは車の通りが少ない等、環境にも恵まれていますので、戸外あそびまたは園外保育(散歩)を、できる日は毎日行うようになっています。春には田植えの様子や田んぼにいるおたまじゃくしを観察し、秋には稲刈りしている様子を見ることが出来ます。子どもたちからも「パパやおじいちゃんたちが田んぼしようよ」「この山でたけのこを採れるよ」と得意そうに話す様子が見られます。広い園庭では砂場や固定遊具以外に、追いかっこや三輪車で遊んだり、昆虫を捕まえて観察をしたり、シロツメクサでプレスレットを作ったりして楽しんでいます。時にはモグラが掘った跡を子どもたちが踏んでから遊びに入るといこともありますが…

現在子どもたちの会話から聞こえてくるのは、ゲームやYouTubeの事が多く、実際夕方まで保育所で過ごし、家庭で食事等の準備をしている間の時間を過ごすには危険がないのかもしれませんが、また、車での移動が多く、「散歩に出てもすぐに疲れてしまう」という子どもが多くいます。ですので、園にいる間は、体力作りのために、また自分たちが住んでいる所は自然豊かで素敵な所だということを感じて欲しいと思い、戸外あそび・園外保育を中心としています。

【体操・ストレッチ・太鼓教室を通して】

もう一つ体力づくりの一環として、全クラス遊戯室にて朝の体操とストレッチを行っています。未満児クラスの子もたちも、年長児が行っている姿を真似ながら、楽しそうに行っています。最初は体が硬かった子どもたちも、日々続けることによって徐々

香春町立採銅所保育所 所長 羽座岡 美幸

「げんきいっぱいかわらっこ」をめざして

に柔軟性が見られるようになり、戸外あそび中の怪我也少なくなったように思います。

また、年中児・年長児は月に2回、講師の指導による太鼓教室を行っています。年中児は、音楽に合わせて打つ曲太鼓や創作太鼓「なかよし太鼓」、年長児は創作太鼓「元気太鼓」、香春町を流れる川をイメージして作られた「清瀬川」や篠笛や太鼓に合わせて手話歌「炭坑節」を練習し、運動会や生活発表会で演奏をしています。また年長児は、採銅所校区運動会での演奏や香春町で行われる「ふるさとかわら秋まつり」「農業まつり」にて香春町の2園の保育所と合同で演奏を行っています。演奏には体力を使い、大勢の人の前で演奏することは、緊張をし、勇気がいることですが、みんなで心一つにして演奏することで自信に繋がり、卒園をする頃には、年中児に自分たちが学んだことを伝えようと、先生になって教えています。年中児も年長児が演奏する姿に憧れを持ち、自分たちもそうなりたいと、真剣に教えてもらっています。太鼓教室を通して、体力づくりだけではなく、1つの事をみんなでやり遂げる達成感も感じて欲しいと願っています。

【おわりに】

当園は、保護者が地元で育った方が多く、「保護者はみんな顔見知り」と言ってもいいくらいです。そのため、自分の子どもだけではなく、「子どもたちの応援団」として全園児の事を気にかけてくださり、運動会や生活発表会では、「昨年ではできなかったことができるようになって、みんな成長をしたね」と全プログラムを暖かい眼差しで見てくださっています。また、祖父母の方のお迎えも多いため、園の畑を見ては、「先生、こうした方が野菜の育ちがいいよ」とアドバイスを頂くこともあります。子どもたちも職員も恵まれた環境の中で成長をさせて頂いていると実感しています。私たち職員も、保護者の方の気持ちに応えるべく、採銅所の事をもっと知り、地元との交流を多く持つことを心がけ、子ども達一人ひとりの思いを大切に受け止めることで、自分や家族を愛し、地元を愛することができる子どもたちに成長してくれることを願いつつ、保育を行っていきたいと思います。

第62回 全国私立保育園研究大会 熊本市大会

青梅保育園 園長 半田 義文

希望に満ちた子どもたちと
共に歩むために

～森と水の都 熊本から元気を～



2019年6月11日～13日の3日間にわたり「市民会館シアーズホーム夢ホール」（メイン会場）と「熊本市国際交流会館」（サブ会場）にて、全国から1,900余名が参加して第62回研究大会が開催されました。

1日目は、「鎮西高校ダンス部」と「熊本城おもてなし武将隊」によるオープニングアトラクションに始まり、開会式、表彰式が行われました。今回の表彰を受けたのは「保育功労賞」が78名で「保育カウンセラー資格認定者」が41名でした。おめでとうございます。

次に、「保育をめぐる動向と取組」の演題で行政説明が厚生労働省子ども家庭局保育課の唐沢企画官よりありました。

その後、「保育を取り巻く動向と情勢について」の演題で全国私立保育連盟の塚本常務理事より基調報告がありました。

そして、最後にシンポジウムとして「世界から見た日本の幼児教育」～これからの保育の質とは～とのテーマで田熊美保氏（OECD教育局シニア政策アナリスト）と藤本平司氏（新渡戸文化短期大学客員教授、新宿せいがこども園園長）によるパネルディスカッションが行なわれました。

世界が大きく変わっているであろう2030年という時代を生きていくために、子どもたちに求められる力とは何か、また、そのためにはどのような教育が必要とされているのかについて、OECDの新時代に向けた教育の提言「キー・コンピテンシー（主要能力）」とは自主的に学ぶ姿勢や態度、価値が重視される。自ら意思決定をし、自ら行動し、未来を自ら形づくる世の中に責任を持ち変化を起こす主体としての子どもが求められる。これは改定保育指針の10の姿とも重なるというお話でありました。

2日目は、20の各分科会場で活発な議論が交わされました。これについては、詳しくは11月に報告書が出る予定です。

3日目は、分科会報告の後、地元出身タレントのロッケさんの記念講演がありました。演題は「母さんの『あおいくま』」で、著書の題名でもありましたが、母に小さい時に教えられた「あせるな、おこるな、いばるな、くさるな、まけるな」を心に止めて成長してきたというような事とか「相手が一番、自分は2番」、「気づくか気づかないか」「やるかやらないか（1年続けるとくせになり楽になる）」等をモットーにしているというようなお話でしたが、話の中に、ものまねの歌や話しぶりがあつたりで楽しく時間が過ぎました。

熊本で3年前に発生した地震からの復興はまだ途上ではありますが、熊本城の着実な復旧工事や町の雰囲気もしっかりと復興をとげつつあると感じました。

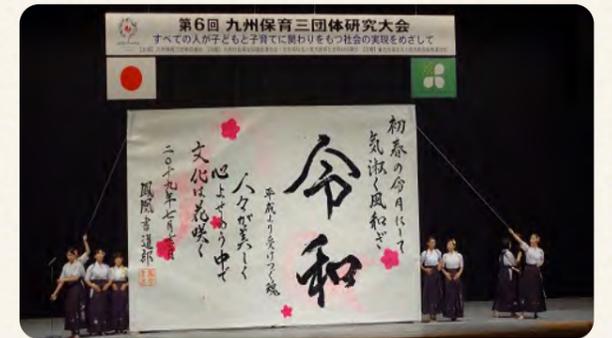
第63回大会は、来年の6月に札幌市で開催されるとのこと。奮ってご参加を！



第6回 九州保育三団体研究大会 鹿児島大会

桜井保育園 保育士 福田 智子 足立 ひとみ

すべての人がこどもと
子育てに関わりを持つ
社会の実現をめざして



令和元年7月11日から13日の3日間にわたり鹿児島市において第6回九州保育三団体研究大会が「すべての人がこどもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」を大会主題として開催されました。

オープニングでは鳳凰高等学校書道部の皆さんによる若さあふれる書道パフォーマンスで幕開けし、和やかな雰囲気の中式典が行われました。大会2日目は8つのテーマに分かれた分科会があり、活発な意見交換が行われました。

第2分科会では「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」というテーマで3園から発表がありました。個々の事例を挙げて、その園や地域ならではの発達支援のツールがあることを知りました。共通する思いは、子どもの気持ちを受けとめ、理解しようと寄り添い見守る。何がその子、親にとって大切なのか、常に考え支えているということでした。

総括では、ここでいう配慮とはどういうことなのか、何を目指し、実践し、どう評価するのかをグループ討議を行い、知恵を出し合いました。

第3分科会では、「保育者の資質の向上を図る」をテーマに元鹿児島女子短期大学教授坪井敏雄先生の助言の下に実践発表やグループ討議が行われました。保育者の資質向上を図るためには、①日常の自分の保育を見直す。（正しいと思って気付いていない課題の発見）②他者の保育を見る。（公開保育、園内研修等で他者の保育を見る）③多様な意見、考え方に触れる。（園外研修等に参加し異なる意見に触れる）④日常の保育の確認（クラス担当者の打ち合わせ、活動報告など）⑤新しく社会から求められた保育を知る。（対応の仕方を知る）の5点が大切なこととして挙げられました。

子ども一人ひとりに必要な支援をしていくためには、保育者同士の意識の共有化を図ること、お互いに意見交換をしあうこと、また、意見交換をし易い職場環境を作ることが保育者の資質向上をしていく上で大切なことだと思いました。最終日は、タレントの哀川翔さんを講師に招いての記念講演がありました。「私の子育て術」と題し

て、ご自身の幼少期のことや5人のお子さんを育てられた経験を通してのお話があり、終始笑顔があふれる講演となりました。特に印象に残ったことが2点あり、ひとつは、「朝ごはんの大切さ」です。哀川家では必ず朝ごはんを家族そろって食べるそうです。朝ごはんを一緒に食べるということは子どもを早く起こさなければならぬ。（イコール、早起きにつながる）そうすることで、家族全員が1日1回は顔を合わせる場となり、朝ごはんは1日の活力の源になるので大切なことと考え実践されてこられたそうです。ふたつめは、「子どもに好奇心を持たせるのは親の役目である」子どもに何かをさせようと思ってはだめで、大人がしていることに子どもが興味を持った時に誘ってみることが大切である。興味をもつと子どもは自然と自分でやってみようとする。その中で考える力がつき、次の経験へと繋がっていく。大人が子どもにしてあげることが、何かを特別に用意するのではなく、子どもが興味を持った瞬間を見極めて誘ってあげることが大切であるという話には大変共感しました。核家族化が進み家族の間も希薄になりつつある現代、改めて家族の絆の大切さを考えさせられました。

最後に、今大会は保育教育の向上のため、九州各県から1,300名を超える保育関係者が集い、研究討議が行われました。新たな「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基に保育実践が積み重ねられ、養護と教育に対する新たな気づきと保育課題に対する更なる取り組みが行われ、その中で、子どもの育ちへの保育の取り組みが重要視されており、保育者のスキルアップが更に求められていることを実感しました。

また、社会の変容とともに子育ての生活環境や子どもの育ちも多様化してきています。私たち保育士は、これまでの保育実績により一層磨きをかけて、社会変化にしっかりと向き合い対応していくことが大切になってくると思います。

研修に参加して、専門職としての意識の向上とスキルアップに努めていくことが非常に大切なことだと思いました。

新園紹介

ぴかぴかの新園を宜しく願います!

若葉保育園
園長 江藤 妙子



【はじめに】 うきは市は福岡県の南東部に位置し、南部には東西に連なる耳納連山、山の麓には果樹園が広がり北部には雄大に流れる筑後川など自然環境に恵まれた市です。今年度 4 月より、公立保育園であったうきは市立若葉保育園を移管による民営化に伴い私たちが私立保育園として運営していくことになりました。

【保育理念】 子どもの個性を尊重し、社会に貢献することができる自立した人間を育成する。

【目指す子どもの姿】 思いやりがあり、元気・やる気・根気のある子ども

【保育の特色】

■**英語とのふれあい** 毎月 2 回の大好きな英語の日は歌や戸外遊び給食を食べるなど、ネイティブの専門講師と子どもたちが一緒に過ごす時間をもつことで、言語や人種といったものへの多様性を受け入れる心を養っています。

■**茶道** 子どもたちは月に 1 回の茶道を通じて日本の「道」の伝統文化にふれ、礼儀作法や形式美を体験し、相手を思いやる心を育てています。来年卒園する頃には、子どもたち同士席入りしたお友達に茶をたてることができるように今練習を頑張っています。

■**食育活動** 「食べることは、生きること」です。幸輪会の給食は玄米を中心とした旬の野菜たっぷりの和食の献立となっています。「本物の味」を知り選ぶことができる「生きる力」を持った子ども達に成長して欲しいと願い、食材を展示したり、玄米や野菜を子どもたち自身が洗い、味噌も子ども達が仕込んだものを使っています。家庭では馴染みが薄い玄米食を子ども達が食べれるか不安な声もあったようですが、保育参観で子ども達がおかわりをする様子を見て安心したり、給食を実際に試食した保護者からはおいしいとの言葉を頂いています。

【おわりに】 公立から私立に移管した初年度ということもあり、保護者の皆様のご理解と多数のご協力を得て日々の運営を行っています。子ども達も新しい環境、新しい先生にもすぐに慣れて、毎日楽しそうに登園してくれていることを大変うれしく思っています。今後も子ども達の笑顔が満ち溢れ、保護者の方が安心して預けられる保育園となりますように職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思っております。

「嘉穂らいむ保育園」は平成 31 年 4 月 1 日より公立を引き継いでスタートした新しい保育園です。嘉麻市は福岡県のほぼ中央部に位置し、その中でも本園は豊かな自然に囲まれた場所にあります。園舎のまわりには、山や田畑など緑に囲まれ、春にはさくらが咲き誇ります。静かで鳥の鳴き声が響きわたり、園庭に遊びに来た鳥やトンボを追いかけて走り回って遊んでいます。「自分らしく意欲的で思いやりのある子ども・他者の喜びを感じられる子ども・丈夫な身体と豊かな想像力を持てる子ども」を保育目標に、沢山の可能性を秘めた夢のある子どもたちの成長を支えていけるような保育内容に力を入れています。

○未満児は午前のおやつを“補食”とし「おにぎり」を提供しています。

○言語聴覚士による個別指導

○理学療法士による 3・4・5 歳児運動教室

○4・5 歳児スイミングスクール

○外国人講師による英会話教室

また、本園は系列事業所があり、沖縄らいむ保育園、デイサービス、らそうむ内科リハビリテーションクリニック、訪問看護、発達支援ルームなど子どもからお年寄りまで幅広い事業を展開しており、互いに連携をとりながら、お年寄りと交流したり、ドクターも頻繁に園に来られ園児の健康状態を診てくれます。また、園には正看護師が常駐し日々の健康管理も細やかに行っています。理学療法士による運動教室や言語聴覚士による個別指導では、系列事業から週に 1 回先生が来て、子どもの困りを見つけ支援しています。また、保育士も児童発達支援ルーム「らいく」で、子どもたちにとって「楽しい場」「落ち着く場」「チャレンジする場」「仲間づくりの場」となるよう、また保護者にとっても「相談できる場」そして「楽しい場」となるよう研修を行っています。

職員一同心をこめて丁寧な保育をして参りたいと思っております。

嘉穂らいむ保育園
園長 岡本 洋子



なないろ保育園 2
園長 大島 さち子



なないろ保育園 2 (ツー) は、2019 年 4 月より宮若市に開園しました。木造平屋建ての園舎に天然芝の青々とした園庭、広々とした運動場と恵まれた環境を活かして、子どもたちと日々過ごしています。

当園では運動能力の向上、知育や食育に力を入れています。3 歳児から 5 歳児クラスでは、外部講師による体育教室・英語教室・そろばん教室・茶道教室を正課に取り入れており、また普段の保育時間においても算数・国語・体育・音楽について遊びの中で触れる機会を多く持てる様に時間割を作成しています。0 歳児と 1 歳児のクラスでは、園庭いっぱいには張られた芝生の上でたくさんの戸外活動を行うことで体力作りや気候にあった体温調節ができる様に配慮しています。2 歳児のクラスではリズム活動を毎日行い、楽しさを感じながら体育教室へ向けたバランスの良い身体づくりを目指しています。また、毎朝ラジオ体操をした後に、かけっこやサーキット遊びを行うことを習慣付けることで、子どもたち自らが行動できるようになっています。

同法人内にある障害者支援施設や老人ホームに協力してもらい、田植え、稲刈り、精米、屋外での炊飯まで行い、1 つの行事でも一連の流れをしっかりと感じるように計画しています。

給食は昼食、おやつ共に毎日手作りしており、地元の業者や店舗を利用したり、法人内で作ったお米を使うなど、地産地消を強く意識した食事を提供しています。

これからも子どもたちの記憶に残るような沢山の活動や体験を提供し、いつの日か大人になった子どもたちがふと思い出し、遊びにきてくれるような、地域に根差した温かい保育園を目指して行きたいと思っております。

今年 4 月、田川郡福智町立中央保育所の民営化に伴い、頓野児童福祉会が事業を引き継ぎ、定員 70 名の「福智中央保育園」がスタートしました。8 月現在 88 名の園児を受け入れ、あっという間に 4 カ月がたちました。保護者の方々にとっては、公立保育所から私立保育園になると、「保育がガラッと変わるのではないか? 保育士が替わることでの子供の動揺が心配? 保護者の負担金が増える?」等、保護者にとっては不安が大きかったことと思います。まずは、毎日の送迎の際に保護者とのコミュニケーションをとることを大切にしてきました。また、入園式、親子遠足、保育参観、試食会、お泊まり保育、個人懇談、夏祭り行事を園児、保護者と一緒に取り組む中で、保護者との信頼関係も少しずつ築けているように感じています。

移管前の一年間は引継ぎ準備期間として、福智町、保護者会、当法人と三者協議会を立ち上げ保育内容の説明、保護者からの要望(送迎バス、保護者負担金、制服・行事について)等も聞き入れながら、一つ一つ合意をしていきました。2018 年 10 月からは引継ぎ保育のためにまずは当法人の各施設から異動する職員 6 名と中央保育所職員(町職員と臨時職員)とで合同職員会議を行い、顔合わせと打ち合わせを行ってから実際の保育に入っていました。引継ぎ保育に入る職員は、全然知らない職員や子供たちの中に入るので、不安でいっぱいでしたが、中央保育所の園長先生はじめ職員の方々が温かく受け入れていただき、スムーズに引継ぎ保育を行うことができました。

無償譲渡を受けた保育園の建物は築 20 年になるので、老朽化も目立ってきておりますし、定員数に対して大きすぎる現行施設なので、空いたスペースを地域交流の場所として利用できる改修など、より良い保育環境を整えていきたいと考えています。

【編集後記】

最近痛ましい事故や事件をよく耳にします。散歩中の保育園児の列に車が突っ込む事故や小学生が通学バスを待っている時に刺される事件、高齢者ドライバーによる暴走事故など、犠牲者が何人も出ています。ニュースを聞くたびに胸が締め付けられる思いです。

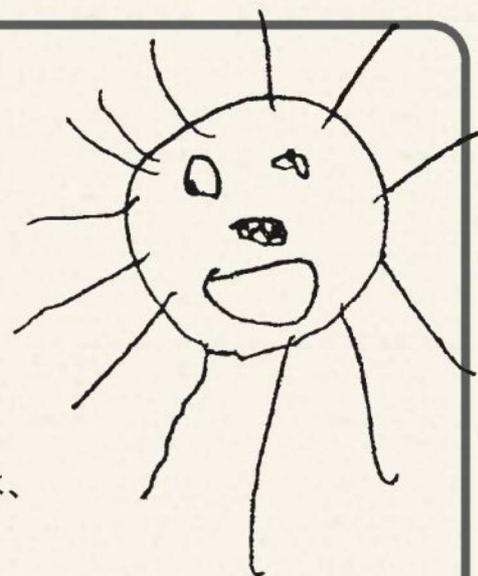
園外保育は、子どもたちが身近な自然を感じ、地域の人々と関わり、豊かな体験が得られる機会でもあります。改めて危機管理について職員間で共通理解を持ち、子どもたちの安全を守って行きたいと再確認しました。

広報部 秋吉

福智中央保育園
園長 金田 るみ子



園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。

(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」

「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」

「特別保育事業賠償責任保険」

など、園経営におけるリスクに関する保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度(総合生活保険(こども総合補償))です。団体契約による割引の適用で割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

〈連絡先〉 (公社)全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

